

風水害対策について

大雨や強風は、わたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。ふだんから気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

雨の強さと降り方

(1時間雨量:mm/時間)

10mm以上~20mm未満	20mm以上~30mm未満	30mm以上~50mm未満	50mm以上~80mm未満	80mm以上~
ザーザーと降る。雨の音で話し声が良く聞き取れない。	どしゃ降り。傘をさしてもぬれる。	バケツをひっくり返したように降る。道路が川ようになる。	滝のように降る。(ゴーゴーと降り続く)傘は全く役に立たなくなる。	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。

風の強さと吹き方

(平均風速:m/秒)

10m/秒以上~15m/秒未満	15m/秒以上~20m/秒未満	20m/秒以上~25m/秒未満	25m/秒以上~
風に向かって歩けなくなる。傘をさせない。	風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。高所での作業は極めて危険。	何にかつかまっていないと立ってられない。飛来物によって負傷するおそれがある。	屋外の行動は極めて危険。

雪害対策について

大雪の日は「外出しないこと」が身の安全を守るための最善の対策です。

車を運転しているとき

見通しが悪い状況では、追突事故を引き起こすおそれが非常に高いため、ハザードランプを点灯し、ゆっくりと路肩に寄せるなど無理に運転を続けないようにしましょう。

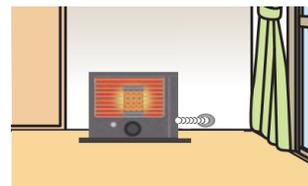


車で外出する場合の備え

- けん引ロープ
- 脱出板
- ブースターケーブル
- スノーブラシ
- 毛布
- スコップ

家の中ですごすとき

F F式暖房機などを使用している場合、給排気口が雪でふさがれると一酸化炭素中毒を起こすおそれがありますので、定期的に給排気口を確認しましょう。



雪害における停電への備え

- 使い捨てカイロ
- 電池
- 懐中電灯
- 電池式ストーブ
- 非常食 飲料水
- ラジオ
- 卓上コンロ

土砂災害の種類について

大雨などにより地中にしみ込んだ水分などが起因となり、大きな災害になる可能性があります。事前にその災害のメカニズムを理解し、周辺の変化に注意して災害に対応しましょう。

土砂災害

土砂災害警戒情報とは、大雨警報(土砂災害)が発表されている状況で土砂災害が発生するおそれがあるとき警戒を呼びかける情報のことで、北海道と気象庁が共同で発表します。土砂災害警戒情報が発表されていなくても、普段と異なる状況「土砂災害の前兆」に気付いた場合には、直ちに周りの人と声をかけ合い安全な場所へ避難し、役場や消防に連絡してください。日ごろから危険箇所や避難所・避難経路を確認しておくことも重要です。

がけ崩れ

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。



土石流

谷や斜面に溜まった土砂が、雨や集中豪雨などによって、一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20~40km/hという速度で一瞬のうちに人家や田畑などを壊滅させてしまいます。



地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によって、ゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土塊量が大きいため、甚大な被害を及ぼします。また一旦動きだすと、これを完全に停止させることは非常に困難です。



※上記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるといったものではありません。普段と違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

警戒区域と特別警戒区域とは

【警戒区域と特別警戒区域の設定について】

基礎調査により **土砂災害警戒区域(通称:イエローゾーン)** **土砂災害特別警戒区域(通称:レッドゾーン)** を設定します。

警戒区域イエローゾーン
土砂災害のおそれがある区域

- 地形条件で設定する
- 過去に発生した災害の実態から定められた地形の条件

- 急傾斜地(がけ)
- 傾斜度が30度以上で高さが5m以上の区域
- 斜面下部より高さの2倍の距離の範囲(最大で50m)
- 斜面上部より10mの範囲
- 土石流
- 地盤勾配2度以上の土地の範囲
- 地すべり
- 地すべりしている土地の長さと同じ範囲(最大で250m)

特別警戒区域レッドゾーン
建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域

建築耐力 土砂等の力

土砂等の力と建築物の耐力を算出し、比較判定により設定する

土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)

建築物の構造規制
新築、増改築を行う場合、建築確認申請の対象となります。土砂等による衝撃に対して安全な構造が求められます。

特定の開発行為に対する制限
宅地分譲、老人ホーム・病院などの要配慮者利用施設の建築を行うための開発行為には、許可が必要となります。

建築物の移転等の勧告
土砂災害が発生した場合、その居住者、利用者等の生命に著しい危害が生じるおそれのある建築物については、建築物の所有者や管理者が、移転等の勧告を受けることがあります。

■ 土砂災害情報については、「北海道土砂災害警戒情報システム <https://www.njwa.jp/hokkaido-sabou/>」で入手することができます。



スマホ版

地震対策について

地震発生時の時間経過別行動マニュアル

地震発生
緊急地震速報

1~2分

揺れを感じたり、緊急地震速報を見聞きしたら

- 手近な座布団などで頭を保護し、避難経路を確認する
- 大きな揺れが来る前に、テーブルや机の下などで身の安全を確保する

3分

揺れがおさまったら

- 火元を確認 火が出たら、落ちていて初期消火
- 家族の安全を確認 倒れた家具の下敷きになっていないかを確認
- 靴をはく 家の中はガラスの破片が散乱
- 避難するときは、ブロック塀・自動販売機等に注意

5分

みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

隣近所に声をかけよう

- 隣近所で助け合う 災害弱者の安全確保
- 行方不明者はいないか ●ケガ人はいないか

出火防止 初期消火

- 初期消火 ●消火器を使う ●バケツリレー 風呂の水はため置きをしておく
- 漏電・ガス漏れに注意 ガスの元栓・電気のブレーカーを切る ●余震に注意

10分

数時間

3日

ラジオなどで正しい情報を

- 防災機関、自主防災組織の情報を確認
- デマにまどわされないように ●電話は緊急連絡を優先する
- 津波からの避難などやむを得ない場合を除き、原則、車は使用しない

協力して消火活動、救出・救護活動を

- 災害情報・被害情報の収集 ●無理はしない ●こわれた家に入らない
- 助け合いの心が大切 ●避難所では、協力し合って自主運営
- 水、食料は蓄えているものでまかなう 最低3日分の飲料水と食料の備蓄をしておく

屋内にいた場合

家の中

- ・緊急地震速報を見聞きしたり、揺れを感じたら、すばやく身の安全を確保する。
- ・火の使用中に揺れを感じたら、揺れが収まってから、あわてずに火の始末をする。(コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに)
- ・乳幼児や病人、高齢者など災害弱者の安全を確保する。裸足で歩き回らない。(ガラスの破片に注意!)

デパート・スーパー

- ・カバン、買い物かごなどで頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れる。柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。

集合住宅

- ・ドアや窓を開けて避難口を確保する。
- ・避難にエレベーターは絶対使わない。炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。
- ※エレベーター乗車中は全てのフロアのボタンを押して下さい。

劇場・ホール

- ・カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。

電車などの車内

- ・つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。
- ・途中で止まっても、非常コックを開けて勝手に車外へ出たり、窓から飛び降りたりしない。
- ・乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。

車を運転中

- ・ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、道路の左側に停め、緊急車両等の通行スペースを確認し、エンジンを切る。
- ・揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- ・避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。

屋外にいた場合

路上

- ・その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などに避難する。
- ・近くに空き地などが無いときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
- ・ブロック塀や自動販売機には近づかない。倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。

海岸付近

- ・高台へ避難し津波情報をよく聞く。注意報、警報が解除されるまでは海岸に近づかない。

気象庁が発表する情報について

気象庁は、大雨や暴風などによって発生する災害の防止・軽減のため、気象特別警報・警報・注意報などの防災気象情報を発表しています。

気象警報・注意報の種類	
特別警報	大雨(土砂災害、浸水害)、暴風、暴風雪、大雪、波浪、高潮
警報	大雨(土砂災害、浸水害)、洪水、暴風、暴風雪、大雪、波浪、高潮
注意報	大雨、洪水、強風、風雪、大雪、波浪、高潮、雷、融雪、濃霧、乾燥、なだれ、低温、霜、着氷、着雪
早期注意情報(警報級の可能性)	大雨、暴風(暴風雪)、大雪、波浪

特別警報をご存知ですか？ 特別警報の発表基準		
現象の種類	基準	
大雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合	
暴風	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により	暴風が吹くと予想される場合
高潮		高潮になると予想される場合
波浪	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合	高波になると予想される場合
暴風雪		数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合

表中の“数十年に一度”の現象に相当する降雨量等の客観的な指標は気象庁ホームページで公表しています。

▶

特別警報が発表されたら

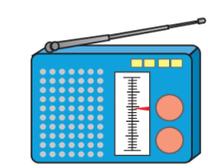
- ・尋常ではない大雨や津波等が予想されています。
- ・重大な災害が起こる可能性が非常に高まっています。
- ・ただちに身を守るために最善を尽くしてください。

さまざまな災害の情報入手先

テレビ(リモコンのdボタン) ラジオ 緊急速報メール



地上デジタル放送のデータ放送から防災情報を確認できます。地域で開設された避難所情報を見ることができます。



持ち運びもでき情報収集として災害発生時には有効な手段です。日ごろから受信状況を確認しておくことが大切です。



災害・避難情報等を、災害発生対象地区内の携帯電話やスマートフォンに同時配信するサービスです。

気象や防災に関する情報は以下のホームページなどからも入手できます。

防災情報全般

(警報・注意報/地震/竜巻など)

北海道防災情報



PC・スマホ版
<https://www.bousai-hokkaido.jp/>

気象情報

気象庁 札幌管区気象台

PC・スマホ版

<https://www.data.jma.go.jp/sapporo/>



気象庁サイト PC・スマホ版

<https://www.jma.go.jp/jma/>



雨量・水位情報

国土交通省 川の防災情報



PC・スマホ版
<https://www.river.go.jp/>

地震災害

災害への備え

5

6

自らの命、家族の命を守るために!

適時適切な避難を行うために、家族や地域で確認しましょう。

□ハザードマップ（P9～P21）を見て、河川が氾濫した場合には何m浸水してしまうのか、土砂災害が起こりやすい場所はないのかなど、自宅や職場等のよく立ち入る場所には、どのような危険があるのか確認しましょう。

□避難所（P22）までの経路や移動手段について計画しておきましょう。



1 自主防災を心がけましょう

地域の防災意識が、災害時に人命を助けることにつながる。

□東日本大震災では、近所の「声かけ」によって多くの方々が無事でした。このことから地域の皆さんが協力して初期消火・被災者の救出・救助、災害や避難に関する情報の伝達、避難の誘導、避難所の運営を行うことにより地域の被害を少なくすることができます。

□自主防災を心がけ、日ごろからコミュニティを大切に、連帯感を深めていくことが必要です。



2 行政機関から提供される防災情報について確認しましょう

□避難情報、気象庁等の情報には、以下のものがあります。*1

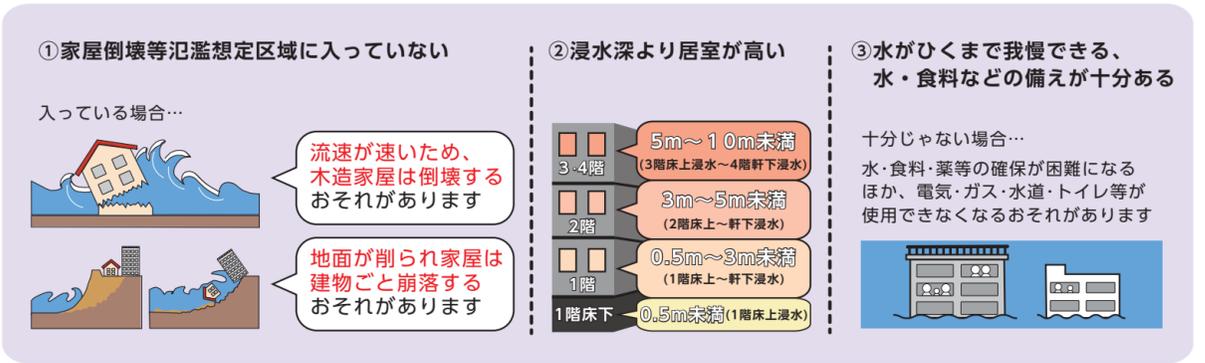
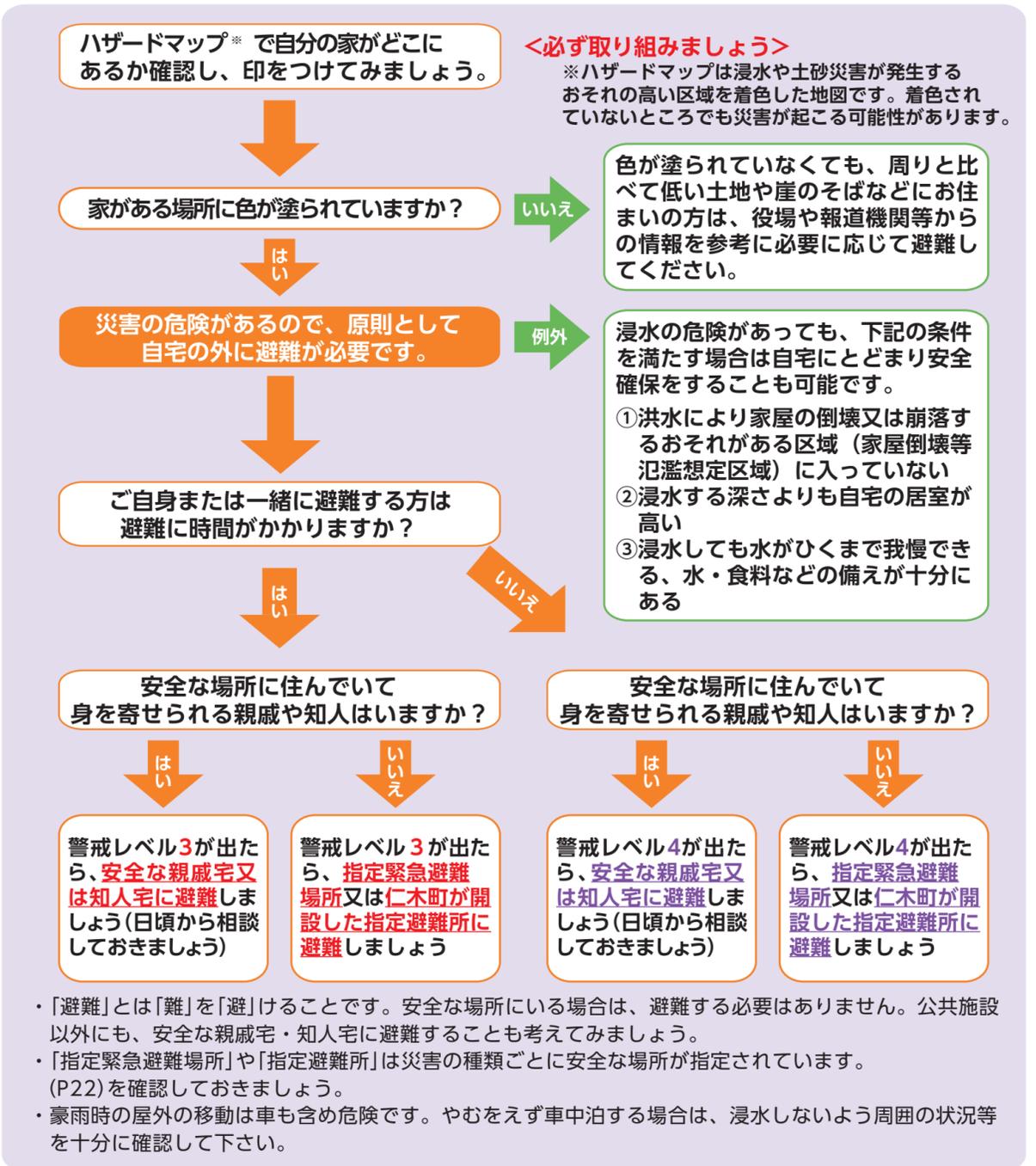
高	警戒レベル	避難情報	気象庁等の情報	避難行動
	警戒レベル5 命の危険 直ちに安全確保!	緊急安全確保*2	大雨特別警報 等	すでに災害が発生、又はまさに発生しようとしている状況です。 命を守るための最善の行動をとりましょう。
~~~~~ < 警戒レベル4までに必ず避難! > ~~~~~				
	<b>警戒レベル4</b> 危険な場所から 全員避難	避難指示	土砂災害 警戒情報 等	速やかに危険な場所から避難先へ避難しましょう。避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。
	<b>警戒レベル3</b> 危険な場所から 高齢者等は避難	高齢者等避難	大雨警報 洪水警報 等	避難に時間を要する人(ご高齢の方、障がいのある方、乳幼児等)とその支援者は危険な場所から避難しましょう。その他の人は、避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難しましょう。
	<b>警戒レベル2</b> ハザードマップ等で 避難行動を確認		大雨注意報 洪水注意報 等	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難先、避難経路を確認しましょう。
低	<b>警戒レベル1</b>		早期注意情報 (警報級の可能性)等	最新の気象情報等に留意するなど 災害への心構えを高めましょう。

・仁木町長は、気象庁等の情報のほか、地域の土地利用や災害実績なども踏まえ総合的に避難情報の発令判断をすることから、避難情報と気象庁等の情報が出るタイミングや対象地域は必ずしも一致しません。  
・避難時の行動を示す「避難情報」については、今後、見直しされる場合があります。

*1 必ずしも、この順番で発令・発表されるとは限らないので、ご注意ください。

*2 緊急安全確保は、災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、必ず発令されるものではないことに留意してください。

## あなたがとるべき避難行動は？（避難行動判定フロー）



災害への備え

災害への備え